

令和4年度草津市立教育研究所第2回運営委員会

日時 令和5年2月2日(木)

15:30~16:45

場所 教育研究所 研修室

次第

1 開会のあいさつ(教育研究所長 木村 弘子)

2 令和4年度事業の実績と課題について

(1) 研修事業について

(2) 調査研究に関する事業について

(3) 教育相談に関する事業(やまびこ教育相談室)について

(4) スキルアップアドバイザー配置事業について

(5) その他

3 令和5年度の事業計画について

4 閉会のあいさつ(教育研究所長 木村 弘子)

令和4年度 草津市立教育研究所運営委員会運営委員 (敬称略)

	団体等	氏名	所属
1	学識経験を有する者	系乗 前	滋賀大学教育学部教授
2	校長会の代表	成田 陽子	笠縫小学校長
3	園長・所長の代表	中島 昭子	老上こども園長
4	教頭会の代表	藤井 泰三	高穂中学校教頭
5	小中学校教員の代表	雪竹 幸美	志津南小学校教諭
6	市社会教育委員の代表	橋本 篤典	草津市社会教育委員会議代表
7	市立小中学校の保護者		
8	市同和教育推進協議会の代表	片山 恵泉	市同和教育推進協議会副会長
9	公募による市民	西村 旭生	
10		真崎 英香	

○研究所職員一覧

		氏名	担当業務
1	所長	木村 弘子	所内事務の総轄 中学校教員のスキルアップ支援
2	副参事	恒松 睦美	SSW(スクールソーシャルワーカー)
3	指導主事	奥村 真也	所内事務・事業運営全般
4	専門員	湯浅 圭太	所内事務(児童生徒支援課と兼務)
5	研究員	杉本 久美香	調査研究
6	指導員	中谷 仁彦	適応指導教室「やまびこ」 教育相談・学校支援
7		小川 絹子	
8		西澤 留美子	
9		西村 奈那子	
10	スキルアップアドバイザー	清水 康行	小学校教員のスキルアップ支援
11		山崎 賢	
12		仲野 忠克	ICT活用のスキルアップ支援

●令和4年度事業の実績と課題について

令和4年度 夏期研修講座について

1 開設講座

新型コロナウイルスの対応により、若干の人数制限を行ったが、希望者は全て参加いただくことができた。【一般講座…11講座 くさつ教員塾…3講座】

また、NITS(独立行政法人教職員支援機構)のオンライン研修サイトを紹介し、いつでも研修を行っていただける体制を整えた。

2 受講状況

受講者数(一般講座・くさつ教員塾)…690名

3 受講者評価

受講者が講座終了後、または動画視聴後に、満足度を4段階(「満足」「ほぼ満足」「やや不満」「不満」)で評価。

一般講座 平均満足度	くさつ教員塾 平均満足度
98.06%	99.19%

4 成果と課題

【成果】

- ・新型コロナウイルスの感染拡大対応のため、若干の人数制限を行う予定をしていたが、希望者の調整を行いながら、希望者は全て参加していただくことができた。また、一つの講座ではあるが、ライブでのオンライン配信を行うこともできた。
- ・昨年度に引き続き LGBTQ や ESD など、教育の今日的な課題やニーズに即した研修を取り入れて実施することができた。
- ・一方で、昨年度・一昨年度も活用してきた NITS のオンライン研修も紹介し、約 250 回動画の視聴をしていただくことができた。

【課題】

- ・参加募集の当初は若干の人数制限を行ったため、参加を遠慮して下さった先生方が若干数いる様子が伝わってきている。
- ・研修室のキャパシティから考えると、今年度の人数が限界に近いと思われる。希望者の多い講座は、今年度一部開催した、ライブでのオンライン配信を行うことも考えていかなければならない。

令和4年度 自己啓発講座について

1 事業概要 平日の夕方から行う、実技的な演習をメインとする研修講座

2 開設講座一覧(時間は主に、15:50~16:50、実質1時間)

	月日		演題	講師
1	6/14	火	今日の子どもの姿から、明日の体育の授業をつくる5	滋賀大学教育学部 准教授 山田 淳子 さん
2	9/9	金	秋の作品展に向けて6~いきいきとした表現へ 導くために~	草津市立老上小学校 教諭 山田 和美 さん
3	11/17	木	特別支援をベースにした子どもたちとの関わり方	草津市グレードアップ連絡会 SV 古日山 守栄 さん

3 会場および参加人数…延べ参加者数 43人

	会場	参加人数		会場	参加人数
1	老上西小学校 体育館	17	2	教育研究所 2F研修室	12
3	教育研究所 2F研修室	14			

4 受講者評価…全講座平均満足度 100%

	会場	平均満足度		会場	平均満足度
1	老上西小学校 体育館	100%	2	教育研究所 2F研修室	100%
3	教育研究所 2F研修室	100%			

5 成果と課題

【成果】

- ・昨年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から開催できなかった講座を改めて開催することができた。
- ・夏期研修講座や NITS の動画視聴の様子から見えてきている、特別支援教育について学びたいというニーズに応える講座を開催することができた。
- ・毎年同じような時期に、同じような講座を開催することで、継続的に参加してくださる先生方の様子が出てきている。

【課題】

- ・就業時間の中で行う研修であるため、どうしても開催時間が約 1 時間に制限されてしまう。講師の先生も講座の内容の精選に苦勞してくださっている。
- ・中学校の先生方にも参加していただけるような講座を考えていく必要がある。

令和4年度 草津市教育研究奨励事業について

- 1 目的(概要) 市内の教職員・保育士の自発的な教育研究活動の推進を図る。
学校・園、学級等の経営や学習指導方法の改善と充実を図る。

2 応募部門

①	ステップアップ研究 (現職の経験年数は問わない)	これまでの研究実践をふまえて、さらに創造的な実践や今日的課題を追究する実践を積み重ねた研究
②	フレッシュ研究 (若手教員を対象とした研究)	経験10年未満の教職員が行う実践研究
③	就学前教育研究 (幼稚園・保育所・こども園の職員を対象とした研究)	幼児教育・保育の実践を整理し、レポートとしてまとめることによって教育力・保育力を向上させる実践研究

3 応募点数()内は、昨年度の応募数。

部門名	就学前教育	フレッシュ研究	ステップアップ研究	合計
就学前	7(7)			7(7)
小学校		20(21)	10(8)	30(29)
中学校		9(9)	3(5)	12(14)
合計	7(7)	29(30)	13(13)	49(50)

4 成果と課題

【成果】

- ・例年通り、小・中学校については、全20校全てから応募いただくことができた。就学前教育についても、昨年度と同数の応募をいただいている。
- ・経験の若い先生方のスキルアップの場としての位置づけをしていただいているように感じる。
- ・今年度も応募締め切り後すぐに論文作成講習会を開催することで、完成までの見通しをもって取り組んでもらうことができた。夏の研究発表大会にもたくさんの先生方に参加していただくことができ、論文作成の参考にしていただけたと考えている。

【課題】

- ・毎年応募してくださる先生も若干いるが少数であり、継続した研究や実践を考えたときに、そのような応募者が増えていくような働きかけが必要である。

令和4年度 研究員による調査研究について

1 研究主題 自ら「はてな」を見つけ、「やり方」を考える子を育てる算数授業
～「個別最適な学び」と「協働的な学び」という観点から学習活動を工夫して～

2 研究概要

「学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの充実に関する資料」（令和3年3月文部科学省）では、「児童生徒が主体的に学習を進められるよう、それぞれの児童生徒が自分にふさわしい学習方法を模索するような態度を育てることが大切」と記されている。そこで、本研究では、児童が自ら「はてな（課題）」を見つける力や「やり方（計画や見通し）」を考え出す力を高めることを目指して、算数科「データの活用」領域の授業において、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の要素を含んだ学習活動を設定し、児童が主体者となって学びに向かう授業づくりに取り組んだ

3 研究の方法

- (1) 研究協力校（草津第二小、玉川小、志津南小）の第5学年の児童を対象とした児童アンケート（意識調査）と指導者への聞き取りを行う。また、事前に算数科の授業を参観して実態や課題を把握する。
- (2) 研究協力校の実態や課題を踏まえ、算数科「データの活用」領域において「個別最適な学び」と「協働的な学び」の要素を含んだ学習活動、授業計画を構想する。
- (3) 研究協力校の指導者と協働して教材研究を行い、実証授業を行う。
- (4) 実証授業での様子や事前・事後の児童アンケート（意識調査）の結果等から、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の要素を含んだ学習活動の効果を検証する。

4 研究の内容

3学級の実態から本研究で取り組んだ「個別最適な学び」と「協働的な学び」の要素を含んだ学習活動

- (1) 児童が「はてな（課題）」を見出せるパフォーマンス課題の設定
- (2) 児童が自ら見つけた「はてな（課題）」を解決していく学習プロセス（単元計画）の構想。
- (3) 児童が自ら「やり方（解決方法）」を考え、学習活動を選択できる「うろうろタイム」の設定

上に記述した3つの取り組みを実践し、①算数プリント（調査問題）の結果、②児童アンケート（意識調査）の変容、③ふりかえりカードの記述、④抽出児童の様子と変容、の4つでその取り組みを検証した。

5 研究の成果と課題

研究の成果

- (1) 児童が自ら「はてな（課題）」を見出すパフォーマンス課題の設定は、児童が自ら「はてな（課題）」を見つける力を高め、主体的に学びに向かう姿を引き出すのに有効である。
- (2) 児童が見つけた「はてな（課題）」を解決していくような学習プロセス（単元計画）の構想は、児童の主体的に学習を進めているという意識を高めることができる。
- (3) 児童が学習活動を選択できる「うろうろタイム」の設定は、児童が課題解決に向けて進んで「やり方（計画や見通し）」を考える姿を引き出し、児童自身が考えの深まりを味わうことができる。

今後の課題

- (1) 児童が自ら課題解決できたという実感（成功体験）につなげるためには、単元時数の確保が必要である。
- (2) 児童が主体的に学習を進めるためには、児童の意欲を維持するための手立てや工夫が必要となる。
（例えば、児童自身が解決の達成度を評価できる具体的な指標（ルーブリック）を示すなど）
- (3) 児童が課題解決に向けて必要な学習活動を選択できるようになるには、普段から他教科でも対話活動の経験を十分に積み上げておく必要がある。

これらのことから、本研究のような実践は、1回限りではなく、繰り返し積み上げていく必要がある。

地域教材（わたしたちの草津）の編集について

1. 今年度の取り組み（指導書の部分改訂と副読本の入稿・校正）

★令和5年3月に発行する社会科副読本「わたしたちの草津」（部分改訂版）に合わせた指導書の改訂に取り組んだ。

- ・第1回推進委員会・編集委員会（全体）・・・令和4年5月27日
- ・各委員による指導書の見直し、編集作業・・・令和4年5月～令和5年1月
- ・第2回編集委員会（推進委員、編集委員）・・・令和4年8月23日
- ・第2回推進委員会（原稿確認）・・・令和4年12月26日
- ・第3回推進委員会・編集委員会（全体）・・・令和5年2月7日予定



現在、事務局にて印刷・製本作業中。令和5年3月に各小学校へ配布予定である。

★令和5年3月に発行する社会科副読本「わたしたちの草津」（部分改訂版）については、現在、第4稿の校正中で、最終、第5稿までを予定しており、令和5年3月に各小学校へ配布予定。

2. 成果物の紹介

「わたしたちの草津」指導書（部分改訂）の原稿

指導書の部分改訂にあたり、特に次の4つの点に力を入れた。

- ①「単元目標」の見直しと「評価規準（例）」の記載
- ②「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた「単元計画」の内容の見直し
- ③「個別最適な学び」「協働的な学び」の実現に向けて「話し合い活動のポイント」「タブレットPCの活用例」の充実
- ④必要な資料や活用できる資料がすぐに利用できるように参考資料に「QRコード」の掲載

環境教育の視点からSDGsマーク

問題解決型学習をめざした発問

タブレットPC活用例の充実

具体的な評価基準例を掲載

単元を貫く課題と表現活動の掲載

すぐに調べられるようにQRコード

3. 来年度に向けて

新しい指導書に合わせたワークシート・評価テストを見直す必要があるため、今年度、小学校3、4年生の社会科指導をされた先生方を対象に、ワークシート・評価テストの活用に関するアンケートを実施した。そのアンケート結果から今年度の編集委員が挙げた改善点を参考に、来年度はワークシート・評価テストの作成を行いたい。

令和4年度 適応指導教室『やまびこ』

○ 今年度の取り組み（成果）

①学校への復帰

適応指導教室に在籍する中で、学校や保護者と話し合い、本人が無理のない学校との関わりを探っていく中で

- ⇒学校に登校できなかった状態から、定期的に登校(別室、放課後等含む)できるようになった。
- ⇒月に数回程度でも放課後登校したり家庭訪問で担任と会ったりできるようになった。
- ⇒やまびこ内にて、担任や関係教員と会うことができるようになった。

②特別活動を通して

毎月イベントを設定し、活動する中で

- ⇒行事に参加できたり作品を完成させたりすることで、達成感を得ることができた。
- ⇒苦手なことや初めてのことにも挑戦してみようとする気持ちが持てるようになった。
- ⇒公共施設や公共交通機関の利用の仕方を体験し、個人でも利用できるようになった。

③様々な人やものとの関わり

家族以外のひとやものとのふれあいを持つことによって

- ⇒多くの子どもが異年齢の小集団の中に入り、他者と一緒に活動(ゲーム等)できるようになった。
- ⇒自分以外の人の行動や興味のあることに関心を寄せるようになった。

④子どもの変化

同年代の子ども同士の交流や小集団での活動を行う中で

- ⇒表情が和らぎ、居場所の一つとして通室できるようになった。
- ⇒お互いのしていることや会話に耳を傾けたり注目したり、他を意識して生活するようになった。
- ⇒好きなこと興味のあることをして認めてもらうことで、自分に自信を持てるようになった。

⑤情報の共有

保護者、学校、他機関と面談や情報交換することで

- ⇒個々の子どもの様子や抱えている問題について共通理解が図れ、目指す方向性を共有することで、その子に応じた適切な支援を継続して行うことができた。

○ 今後の課題や改善点

- ・面談や情報交換、支援の検討会をさらに充実させ、子どもの抱えている課題や現状を見つめながら、安定して過ごせる環境づくりと学校復帰の手がかりを探る。
- ・小集団で過ごすことへの抵抗感を抱く子どもも多く、個別の対応を必要とする子どもへの人的配置を工夫していく。また生活リズムを整え、安定した通室、または定期的に通室でき、同年代の子どもと顔を合わせることができるよう環境整備および本人、保護者との関わりを目指す。
- ・本人および保護者が中学卒業後も安心して生活できるように、他の相談機関へつなぐ等、手立てや関係機関とのネットワーク作りを充実させる。

令和4年度 教育相談に関する事業

1 目的

- ・不登校および不登校傾向にある児童生徒とその保護者に対して教育相談を行い、学校復帰、社会への自立に向けて、その支援を行う。
- ・学校と連携し、不登校等の問題解決に向け、ケース会議等を通して支援する。

2 今年度の活動状況

- (1) 「やまびこ教育相談室」のパンフレットを各学校、関係機関に配布。市内の小中学校を通して全保護者宛てに案内チラシを年間2回(5月、11月)配布。「教育研究所だより」「コンパス」で教員向けに活動内容と利用方法の説明掲載。各学校とケース会議を実施。

- (2) 教育相談の活動状況 令和4年1月20日 現在

①相談者延べ人数 (前年度同時期との比較)

年度	R4	R3
面談	432	360
電話相談	126	147
相談件数合計	558	507

相談内容(主訴)はほとんどが不登校、または行き渋りで、友人関係、集団不適應、学習困難、子育て、学校・教師の指導については少数である。

②相談者の内訳 (前年度同時期との比較)

相談者	保護者		小学生		中学生	
	R4	R3	R4	R3	R4	R3
面談	172	205	81	69	179	85
電話相談	114	143	4	2	5	1

③相談対象者の内訳 (前年度同時期との比較) その他は省略

相談対象者	小学生		中学生	
	R4	R3	R4	R3
面談	141	155	291	205
電話相談	44	65	77	78

今年度は、中学生が対象の相談が増加。相談のきっかけは「チラシを見て」が多い。

3 学校支援

児童生徒により良い支援を行うため、学校と連携し、ケース会議、電話や面談による情報交換を行っている。教職員からの保護者への当室の紹介や、教職員から当室に事前に連絡が入ることも増えてきている。

4 今後の課題

市内の教職員にやまびこのシステムや活動を十分理解してもらえるよう働きかける。不登校等の課題を抱える児童生徒について、学校との綿密な連携の中で、家庭環境・個人の性格傾向・発達の課題等を総合的に把握、検討し、早期に適切な対応を図る。

スキルアップアドバイザー配置事業について

◆訪問回数及び支援人数（令和4年度 1月末現在）

授業支援			ICT支援		
	(訪問回数)	(支援人数)		(訪問回数)	(支援人数)
小学校	176回	255名	小学校	78回	286名
中学校	29回	35名	中学校	3回	2名
夏季講座	2回	34名	夏季講座	2回	42名

◆訪問・支援内容

- ・年度初めの校長面談（4月）
 - ・授業参観と指導助言（4月～6月）
 - ・OJTリーダーの授業参観と懇談（6月～7月）
 - ・夏季支援講座（7月）
 - ・指導案検討（8月～9月）
 - ・研究授業と授業検討会（9月～12月）
 - ・指導内容についての校長面談（12月）
 - ・授業参観と指導助言（1月～2月）
 - （予定）年度末校長面談（2月～3月）
- ・年度初めの校長・情報担当者面談（4月）
 - ・授業支援（5月～2月）
 - ・市教育情報化リーダー養成研修会（5回）
 - ・夏季支援講座
 - ・市プログラミングコンテスト（12月）
 - ・プログラミング授業の録画

受講者の声（一部）

第一回参観授業（5月）

- A（2年目）：もっと子どもの意見を取り入れて進めることができればよかった。
子どもたちの意見を共有することを意識して、授業づくりを行いたい。
- B（4年目、他市から転入）：話し合う価値のある課題や発問が大事。
ICTの効果的な使い方をみつけていきたい。
- C（初めて・臨時講師）：関係ない意見が出てきた際、なかなか切ることができず、ざわざわしてしまった。子どもが主体的に取り組めるような課題を設定する。

OJTリーダーの参観（6月）

- A（2年目）：一人の意見をクラスのものにしていて、発表しやすい雰囲気ができていた。
子どもたちが自分で辞書で調べたり、ペアで話し合ったりする時間は生き生きしているように感じたので、子どもたち主体で考えることを大事にしたい。
- B（4年目、他市から転入）：子どもたちの興味を引く手立てや、板書の工夫・掲示の大切さを学んだ。目で見て分かるもの、操作できるものを子どもたちが活用して説明する場面を作ることが大事。ICTの活用について、市によってやり方の違いがあるので早くマスターしたい。
- C（初めて・臨時講師）：板書が工夫されていた。たくさんの意見を全員が見やすいように板書し、中心の発問からどんどんつなぎ合わせていったり、対立させたりする板書を取り入れたいと思った。

研究授業（10月～11月）

- A（2年目）：オクリンクを使って友達の文を色分けをすることで、視覚的に文の構造が分かりやすくなった。子どもの姿を想像しながらグループを考えることが大事。机間指導では何を見るのかを決めておく。子どもがやりたいことと教師がやらせたいことを一致させるようにしていきたい。
- B（4年目、他市から転入）：（実験）結果を映像に残すことで前回の活動を思い出すことに有効だった。分かりやすいからと思った画像でも不必要な情報があればなるべくなくして授業で使用することで、見る視点がぶれなくて済むと思った。やれているからOKではなく、より教育効果を高めるため、どこでどのような活動を取り入れるか日々考えていかなければいけない。
- C（初めて・臨時講師）：授業をする前は、いけそうと思っていたのですが、実際に授業をしてみると子どもたちにうまく伝わらなかったり、指示の出し方に課題がまだまだあると感じた。コピー紙だと何枚もあって遊んでしまっていたので、カードを並べる作業にするとよかった。

教科書センター

教科書展示会（令和4年度）

期間：6月3日（金）～7月1日（金）（日・月曜日を除く）

場所：アーバンデザインセンターびわこ・くさつ（UDCBK）



のべ59人の方が来場しました！

「研究所だより」&「所報」の発行について

★「研究所だより」：年間数回を基本に、各保幼小中学校ならびに関係機関へ送付
草津市立教育研究所 HP に PDF で掲載

開催予定日	開催内容(予定)
7月13日(水)	夏休み前研修(研修会)の準備会
研修日誌(1)	10:30～12:00 夏休み前研修
研修日誌(2)	13:30～15:00 研修会(研修会)
10月1日(水)	10:30～12:00 研修会(研修会)
10月1日(水)	10:30～12:00 研修会(研修会)
10月1日(水)	10:30～12:00 研修会(研修会)

★「所報」：1年間の取り組みをCD-ROMにまとめ、各保幼小中学校ならびに関係機関へ送付予定

令和5年度の事業計画について

●職員の研修に関わって

- ・教職員および保育士の資質向上に資する事業を展開する。
- ・草津市の教育および保育向上を図る事業を展開する。
 - ①草津市教職員夏期研修講座 … 10講座程度を予定
 - ②自己啓発講座 … 5講座程度を予定
 - ③教育研究奨励事業 … 市内20小中学校から各校1本以上の応募を目指す

●調査・研究に関わって

- ・学習指導要領(H29告示)に対応した教育課程に関する調査、情報収集を行う。
- ・研究員による調査研究を継続する。
- ・R5 から使用の副読本「わたしたちの草津」の活用を促進するためにワークシート、評価テストの作成も行っていく。

●スキルアップ事業に関わって

- ・小中学校教員の授業づくり、学級づくりへの指導支援を行う。
- ・ICT機器等を活用した授業づくりをサポートする。
 - ①対象教員に対する個別指導を行う。
 - ②夏季研修講座でのICT機器を活用した授業づくりの演習を行う。
 - ③プログラミング学習の支援を行う。

●教育相談に関わって

- ・不登校および不登校傾向にある幼児児童生徒とその保護者への支援を行う。
 - ①電話および来室による教育相談を実施する。
 - ②学校および関係機関と、課題解決に向けての連携を密にする。
- ・適応指導教室「やまびこ」における小集団活動を通して、児童生徒の学校復帰を目指す。
 - ①タブレット端末を使った学習支援。
 - ②学生ボランティアの活用。